

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
社会インパクト創造委員会概要						
	副理事長	照下 修平	委員長	大和 美祈	副委員長	鎌田 将輝
事業計画名	SDG s 浸透事業の実施（通年・4月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	我々は次世代を担う青年経済人としてSDG s の必要性を理解している。しかし大半がそれを意識しながらも行動に移せていない。まずは自分ごととして出来ることから取り組むことが必要です。また、小豆島においてSDG s への取り組みはあるものの周りを巻き込む形で地域全体での運動となるような発信例はあまり多くない。地域全体がSDG s へ取り組むことによって小豆島がさらに魅力ある島へなると考えます。					
事業目的	我々が率先して行動することで地域へSDG s を広げて行く第一歩とする。					
申請該当事業	公2-2（体験活動事業）					
事業内容	J C I 小豆島メンバーが協力し、地域清掃を通じて運動を展開する。SDG s への取り組みを実践する。					
対象者（誰に向けて）	J C I 小豆島メンバー・その他協力団体					
その理由	まずは自分たちが実践し、発信することで波及効果を狙う。					
手法（どんな事業をするか）	清掃活動 （コロナ対策としては感染対策をした上で実施）					
その理由	だれでも簡単にでき、共感が得られやすい					
パートナー（ステークホルダー）	小豆島各団体・個人					
その理由	活動ではなく運動として展開していく為。					
本事業で得られる効果	SDG s 浸透 小豆島で一番SDG s に取り組む団体への第一歩とする					

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
社会インパクト創造委員会概要						
	副理事長	照下 修平	委員長	大和 美祈	副委員長	鎌田 将輝
事業計画名	リビングシフト促進事業の実施（7月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	2万人を切ってしまうかもしれません。人口減少局面においても健全な社会が維持できる地域になるには移住者の受け入れは必須です。小豆地域（小豆島・豊島）の家探しでは、まず両町が運営する「空き家バンク」ということとなります。地域内の空き家件数に比べて、空き家バンクに登録されている流通数は移住希望者に対してまだまだ不足しています。また、移住希望者に対して小豆島の魅力をPRすることは必要不可欠です。					
事業目的	移住促進のための空き家有効活用方法を島民に促す。小豆島の魅力をPR出来る動画を作成し発信する。					
申請該当事業	公2-1（公開型セミナー・シンポジウム開催事業）					
事業内容	動画・チラシを作成し発信する。					
対象者（誰に向けて）	島内外の方					
その理由	島内の方は空き家の有効活用を知ってもらう。 島外の方は島での魅力、移住者の生活を知ってもらう。					
手法（どんな事業をするか）	移住者をメインにドキュメント動画を作成し発信する。 空き家有効活用チラシを作成し島内へ発信する。 J C I 小豆島のホームページに掲載。 Y o u T u b e にて発信。その他発信の機会があれば発信する。					
その理由	発信の機会をできるだけ多く作ること多くの人の目にふれるようにする。					
パートナー（ステークホルダー）	移住者 特定非営利活動法人Totie（トティエ）					
その理由	移住者についてはムービー作成の協力を頂く為。 Totie（トティエ）に関しては移住者の紹介含め、協力して頂く為。					
本事業で得られる効果	小豆島における移住促進の一助とする。					

公益社団法人小豆島青年会議所 2021年度						
社会インパクト創造委員会概要						
	副理事長	照下 修平	委員長	大和 美祈	副委員長	鎌田 将輝
事業計画名	社会インパクト創出事業の実施（11月）					
本事業に至る背景並びに現状分析（解決したい問題）	小豆島には持続可能性のある社会の構築に貢献できる優れた取り組みや素晴らしい島の魅力を世界に発信していこうとする熱意のある活動が種々の団体で行われています。しかし、そうした取り組みやプロジェクトを発掘、評価する仕組みが島内にない。					
事業目的	持続性ある事業の発掘を行い褒章をすることで小豆島の発展に寄与する 小豆島のSDGs創出に寄与する。					
申請該当事業	公2-1（公開型セミナー・シンポジウム開催事業）					
事業内容	第1回小豆島SDGs大賞の開催					
対象者（誰に向けて）	島内の諸団体、個人、企業等					
その理由	幅広く公募して、島内にインパクトを与える為。					
手法（どんな事業をするか）	褒章事業 （エントリーのあったプロジェクトの中から最優秀のものを小豆島SDGs大賞として褒賞する）					
その理由	より効果的にインパクトを与えられる為。					
パートナー（ステークホルダー）	（審査委員）小豆島町長・土庄町長・鎌田長明氏・四国新聞の担当者 （記事掲載）小豆島記者クラブ					
その理由	両町長に関しては行政の視点から審査していただきます。 鎌田長明氏に関しては日本青年会議所会頭経験者としてSDGsを全国に推進していた経験から適任である。 四国新聞の担当者に関しては絶対に新聞記事にさせていただく為。 小豆島記者クラブに関しては新聞記事にさせていただく為					
本事業で得られる効果	小豆島の事業の発掘と小豆島の発展、SDGsの推進の一助となる。					